

学 生 海 外 研 修 報 告 書

鹿児島大学長 殿

【授業担当者】

所属/職名: 農学部/教授

氏 名: 坂上 潤一

授業科目名	海外研修
研修先 (大学・国・都市名)	ボゴール農科大学・インドネシア・ボゴール
研修期間	令和 5年 9月 11日 ~ 令和 5年 9月 17日
<p>〔研修の目的・概要〕</p> <p>農学・水産学をバックグラウンドに有し国際社会で活躍できる人材の育成を目標として、本プログラムでは英語を用いたコミュニケーション能力の強化と安全な海外活動に必要な国際理解と基礎素養の習得を目指す。本プログラムではボゴール農科大学での英語による農水産学科目の講義とフィールドワークによる専門知識の習得と、英会話実践講習、試験場やプランテーションの視察を通じた実践的な英会話の経験を得る事を目的とする。これらの活動を通じて得た学びと体験をグループディスカッションを通じてまとめ、英語での報告会を行う事で鹿児島を含む熱帯・亜熱帯地域における農林水産業上の問題とその解決策について体系的に学ぶ。事前講習として海外渡航に際しての諸手続きと注意、訪問国の治安および感染症の状況確認、経済・地理・歴史および我が国との関係に関する講習と、学生の自己学習成果をまとめたプレゼンテーションを含む4回の講義を行う。</p> <p>帰国後には事後講習として、研修を通じて得た経験ならび知識をまとめるとともに、自己の振り返りと今後の活動へのフィードバック計画について研修成果報告会を行う。</p>	
<p>〔研修の成果〕 * 事前・事後学習も含む。研修の目的や学習成果の達成状況について、また地域のグローバル化や活性化に資する人材育成の観点からの成果についても記載して下さい。</p> <p>一連の本海外研修で行った専門講義、プランテーション農園視察および植物園調査を通して、実践的な英会話の能力の向上と熱帯農業に関する基礎知識、特に熱帯作物の栽培上の問題点と解決策について深く学ぶことができた。対象地域の農業問題は南九州地域の問題と共通する点も多く、本研修で得た経験を鹿児島を中心とする地域の農業活性化に役立てることが期待される。また、高度な英語力の向上から国際的な人材の育成にも資することは疑う余地はない。本研修を通して学んだ経験および知識の達成状況を把握するために、現地において当該熱帯、亜熱帯地域の持続的農業のあり方について発表するスチューデントプレゼンテーションを開催し、さらに、研修成果と自己の振り返りおよび今後の学修へのフィードバックをまとめて発表を行う研修成果報告会を鹿児島で開催した。いずれも目的を達するに十分な学習成果が認められ、本研修の効果は十分にあったと思われた。また現地においてプロジェクト活動風景を撮影・まとめた静止画及び動画をwebサイト上に公開し、本プロジェクトの成果を積極的に地域に発信した。</p>	
<p>〔今後の課題〕</p> <p>本海外研修は、国際食料資源学特別コースが実施する科目「海外研修(インドネシア)」において開講したものである。研修においては、IPB大学のAgriculture and Horticulture学科が中心となり受け入れていただいた。学生らは大学のゲストハウスにて受け入れ大学の学生らとともに集団生活をした。その生活は、日本での生活様式とはかなり異なるもので、初めて当該地域を訪問した学生においては、当初は異文化に慣れない様子が見受けられた。その点から、事前の異文化体験について理解しておくことが重要であることが分かった。また、スムーズな交流を実現するために、受け入れ大学の担当学生らともインターネットなどを介して事前交流しておくことも重要である。</p>	